

令和2年度

岩国市自治会アンケート

報告書



岩国市

目次

I. 調査の概要	1
II. 調査結果	
(1) お住まいの地域	2
(2) 年齢構成	2
(3) 在任年数	2
(4) 自治会長手当	3
(5) 自治会費	3
(6) 自治会活動の従事日数	5
(7) 配布物に関する活動への従事時間	5
(8) 各戸への配布方法	5
(9) 自治会の収入財源	7
(10) 自治会の支出経費	7
(11) 災害時における近隣同士での助け合いや連携	9
(12) 住民同士の交流	9
(13) 自治会に入って良かったこと	11
(14) 退会者対策	14
(15) 未加入者への働きかけ	14
(16) 自主防災活動	17
(17) 自治会活動上の悩み・課題	18
(18) 自治会活動上の悩み・課題の解決に向けて	18
(19) 自治会運営の見直しや工夫	22
(20) 地域に係る問題	23
(21) 地域に係る問題の解決に向けて	25
(22) 今後、積極的に取り組みたいこと	26
(23) その他自治会の取組事例	27
III. 自治会の取組事例	28

I. 調査の概要

1 目的

岩国市内の自治会に関する情報を収集し、様々な取組事例・運営方法を各自治会へ共有して、今後の活動に役立てていただく。

2 調査対象

岩国市内全 788 自治会

3 調査期間

令和 2 年 10 月 1 日（木）から 10 月 31 日（土）まで

4 調査方法

各自治会へ郵送配布、郵送回収

5 回答率

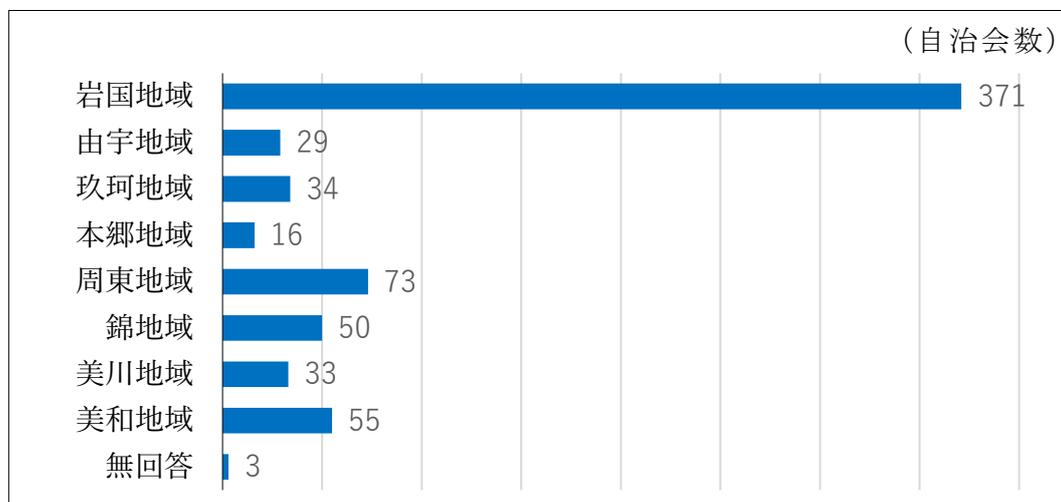
84.26%（アンケート回答 664 自治会）

6 報告書の見方

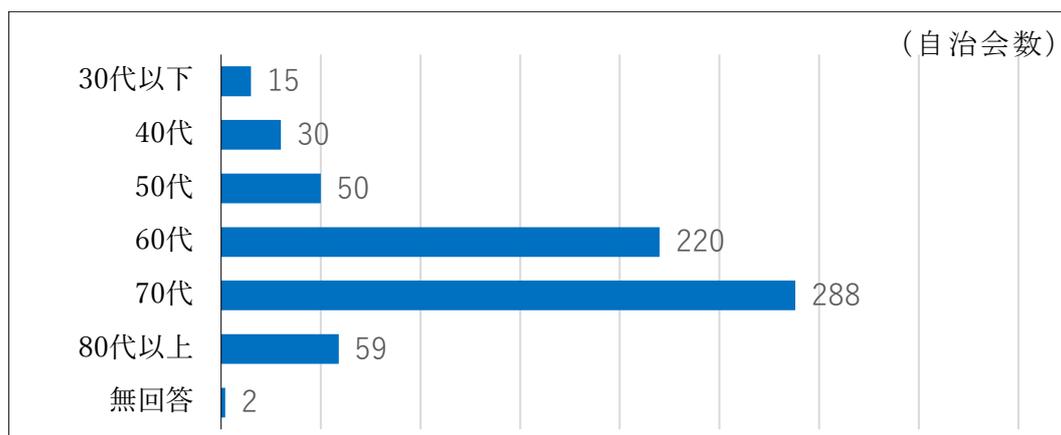
- 本報告書では設問ごとに全体の集計結果を記載しています。
- グラフ中の数字は、各設問に該当する回答者の総数を表しています。
- 設問や図中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合があります。
- 複数回答が可能な設問は、回答数が回答者の総数を超える場合があります。
- その他欄でご記入いただいた事例は「自治会の取組事例」にまとめています。
- 数が多かった意見が大きく表示されるようにデータ加工した「ワードマイニング」という手法を取り入れています。単語はそれぞれ青…名詞 赤…動詞 緑…形容詞で色分けをしています。

II. 調査の結果

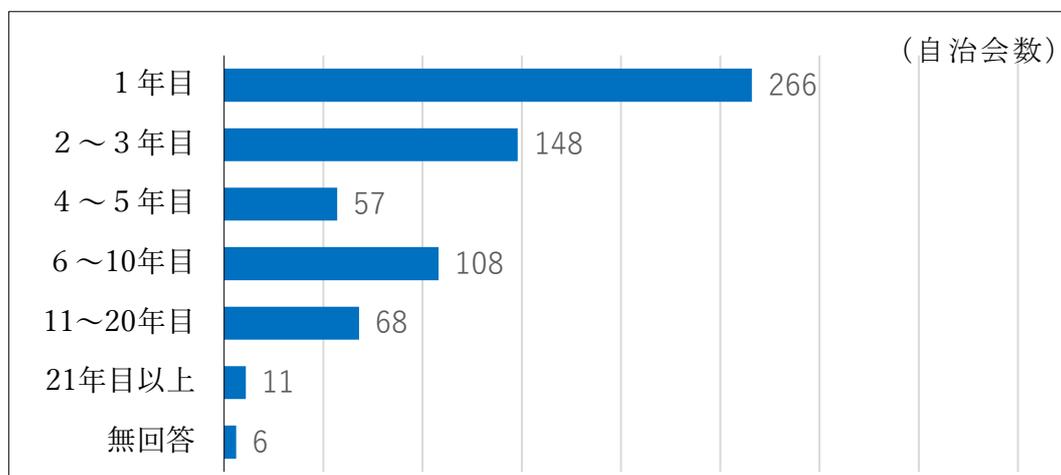
(1) お住まいの地域を教えてください。



(2) あなたの年齢を教えてください。



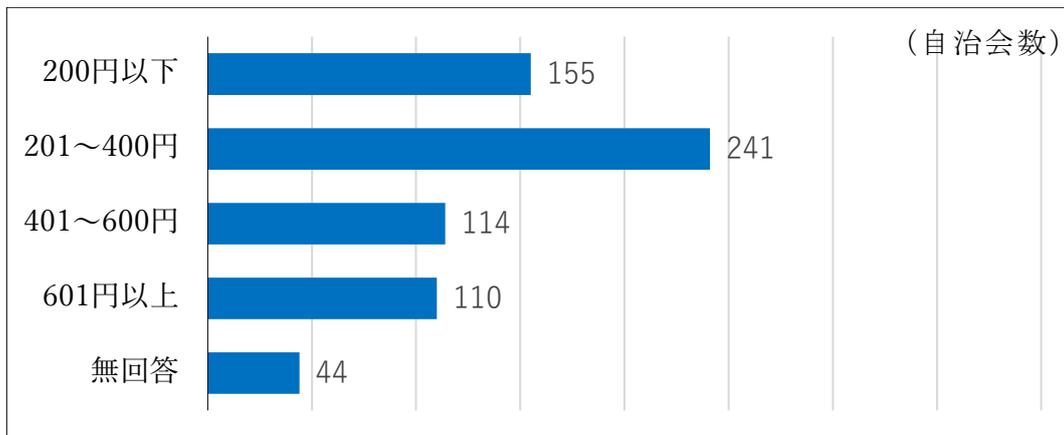
(3) あなたは自治会長になって今年で何年目ですか。



(4) 自治会から自治会長手当（報酬）は支払われていますか。



(5) 基本的な自治会費は、1世帯あたりいくらですか。（月額に換算）



調査結果から

【年齢構成】

自治会長の年齢は「70代」が最も多く、60代以上が全体の8割以上を占めています。

【在任年数】

自治会長の在任年数は「1年目」が最も多く、次いで「2～3年目」が多いことから、6割以上が3年以内に交代していることが分かります。一方で「6～10年目」も多く、約3割が6年以上在任しています。

【自治会長手当】

自治会長に対する報酬は約6割の自治会が支払っており、約4割は無報酬となっています。

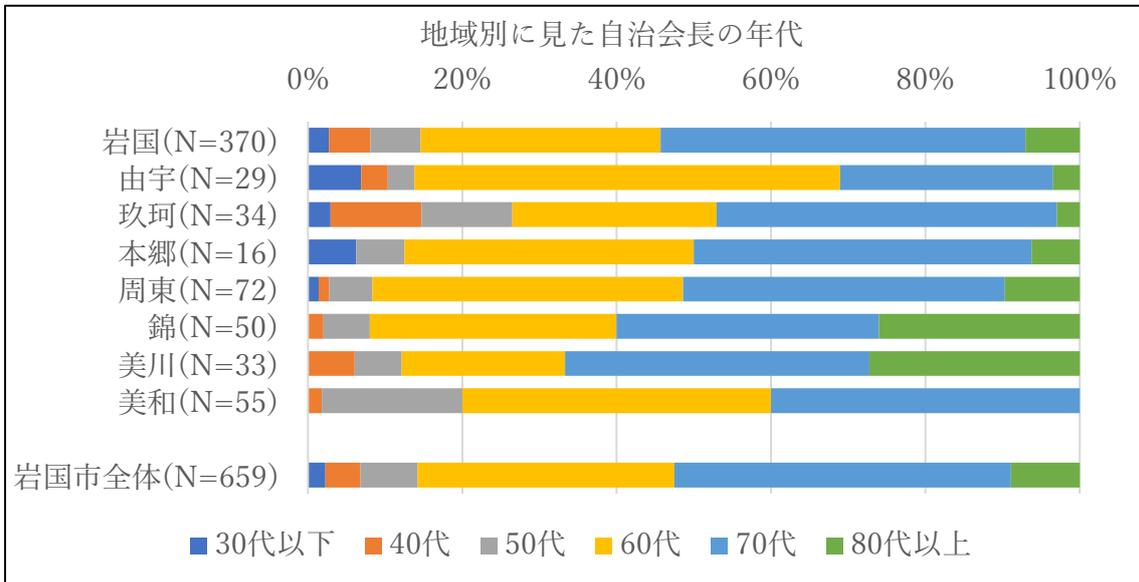
【自治会費】

自治会費は、月額で「201～400円」が最も多く、全体の3割以上を占めています。平均額は約500円となっています。

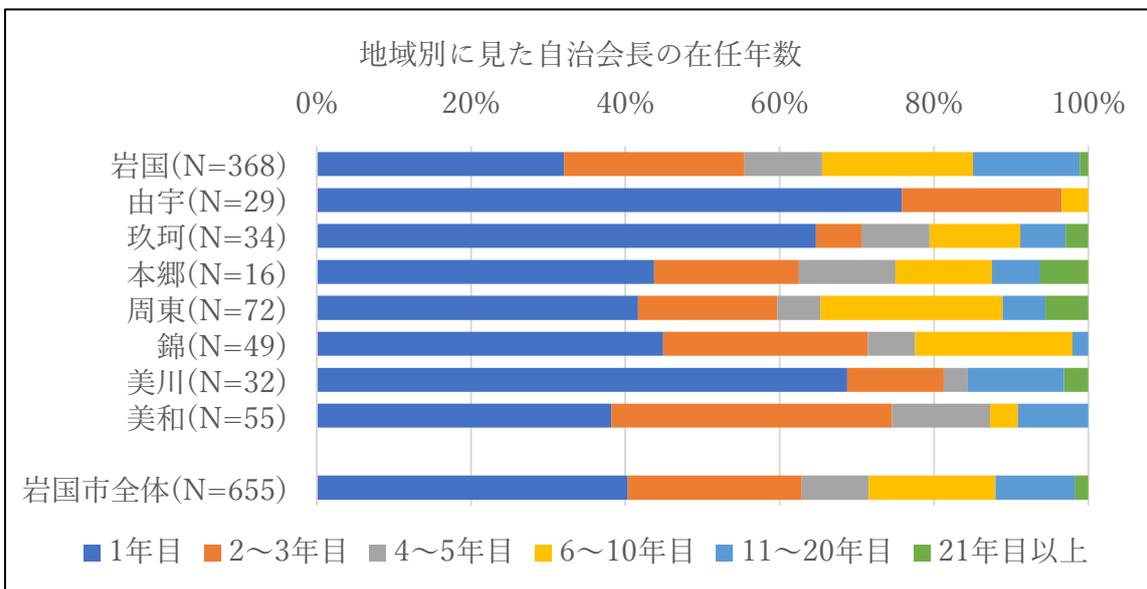


くわしく見ると

【地域別に比較してみました】



自治会長のほとんどは60代～70代の方で構成されていますが、80代の方など、比較的高齢の自治会長が多いのが錦・美川地域でした。一方、30～40代の自治会長など比較若い自治会長は由宇・玖珂・岩国地域に見られます。

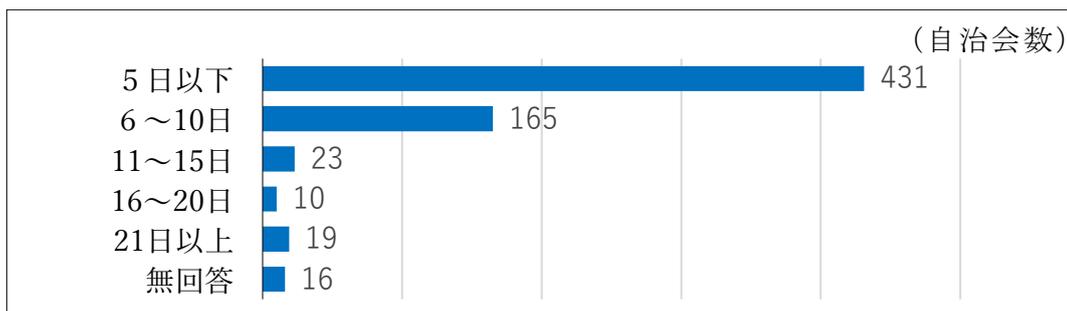


岩国・玖珂・本郷・周東・美川地域には21年以上在任している自治会長が見られます。

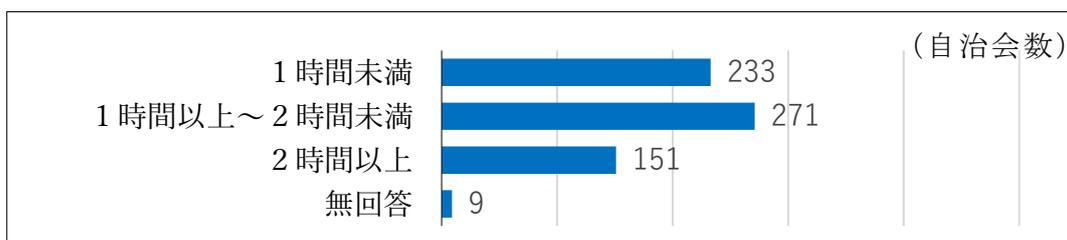
一方、由宇・玖珂・美川地域では1年目の自治会長が半数以上であることが分かります。これは自治会長を1年交代としている地域が多いからと考えられます。特に由宇地域では3年以内にほとんどの自治会長が交代するようです。

総じて比較的在任期間の長い岩国地域と、在任期間の短い由宇・玖珂・美川地域、中程度の本郷・周東・錦・美和地域に大別できます。

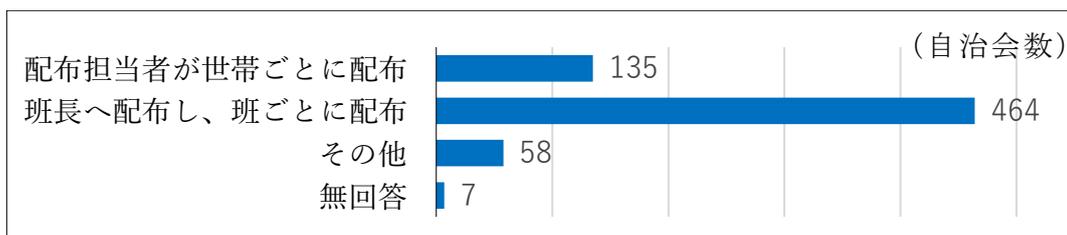
(6) 自治会関係の活動に月に何日ぐらい従事されていますか。



(7) 配布物関係の活動に月に何時間ぐらい従事されていますか。



(8) 配布担当者から各戸への配布方法を教えてください。



調査結果から

【自治会活動の従事日数】

自治会活動の従事日数は「5日以下」が最も多く、次いで「6～10日」が多いことから、約9割の自治会長は従事日数が10日以下と分かります。

【配布物に関する活動への従事時間】

配布物関係の従事時間は「1時間以上～2時間未満」が最も多く、約9割の自治会長は従事時間が2時間未満と分かります。

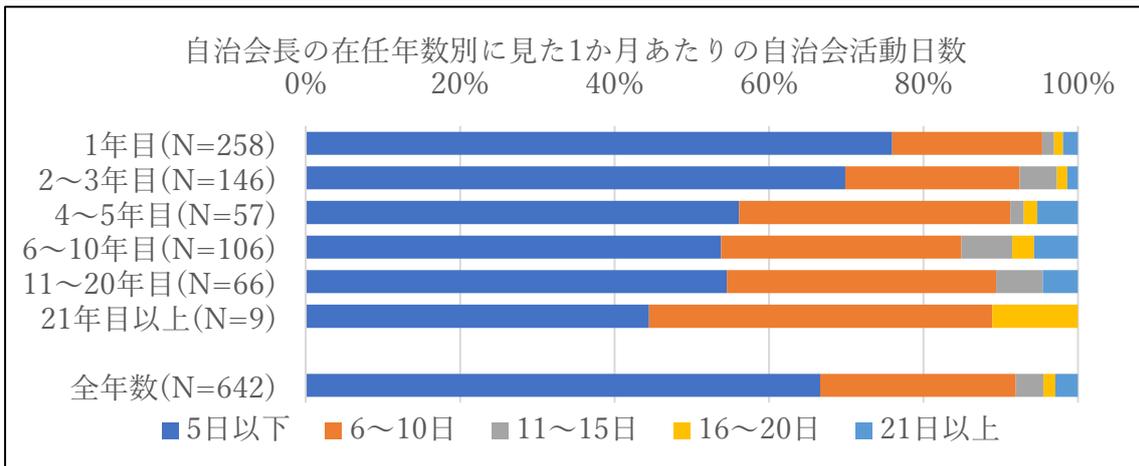
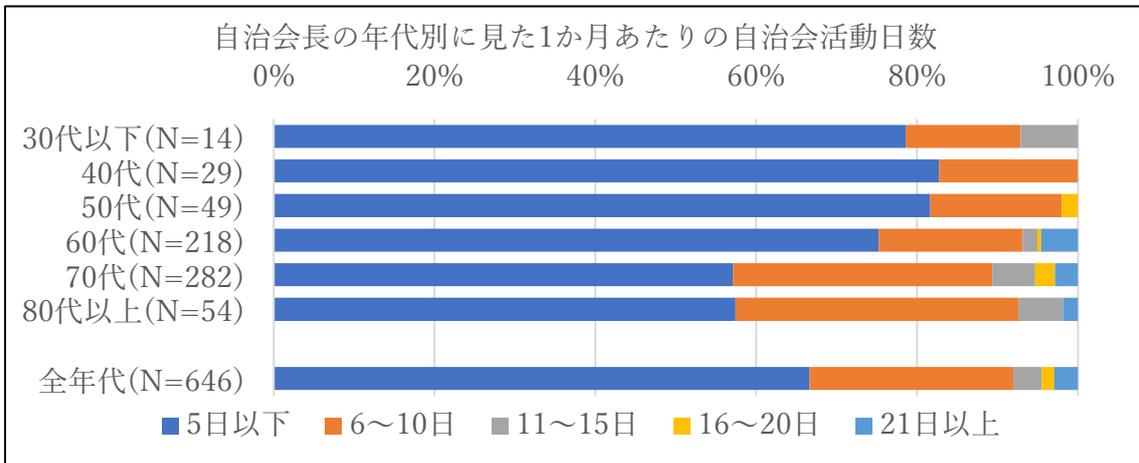
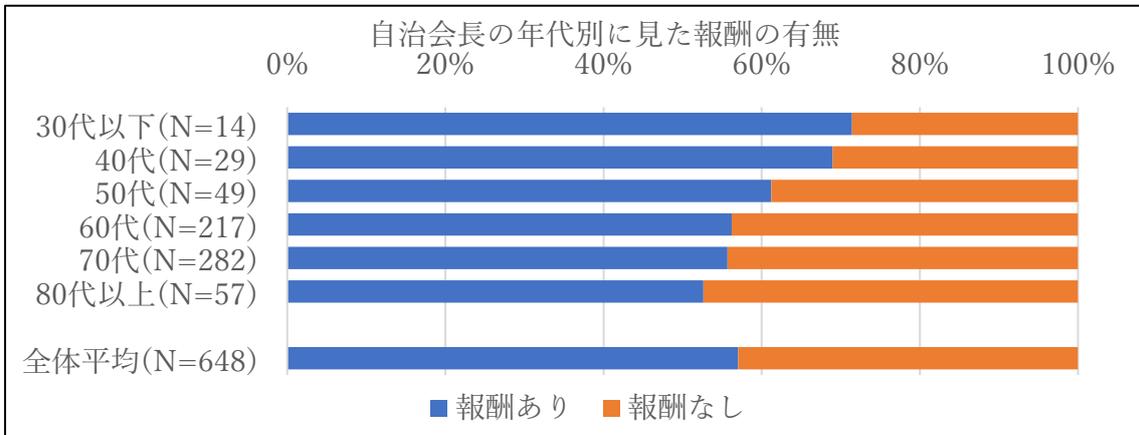
【各戸への配布方法】

配布方法は「班長へ配布し、班ごとに配布」が最も多く、全体の約7割を占めています。また、あとに示す(P7「自治会の取組事例 | 配布物編」)のような方法で配布している自治会もありますので、配布の方法に苦慮されている自治会では参考にしてください。



くわしく見ると

【自治会長の年代別・自治会長の在任年数別に比較してみました】



自治会長の年齢が若い自治会ほど「報酬あり」の比率が高くなっています。

また 60 代以下の若い世代では自治会活動にかかる時間が少なく、自治会長の在任年数が少ないほど自治会活動にかかる時間が少ないことが分かります。これは、若い人や在任年数の少ない人ほど活動に時間をかけていないと見ることはできますが、一方で効率よく活動を行っているとも見えます。



自治会の取組事例 | 配布物編

【回覧方式】

- 専用のバインダーと袋を用意し、回覧方式とする
- 各世帯用封筒に配布物を入れて回覧板に挟み、各世帯に抜いてもらう
- 金品以外は回覧物と一緒に配布する

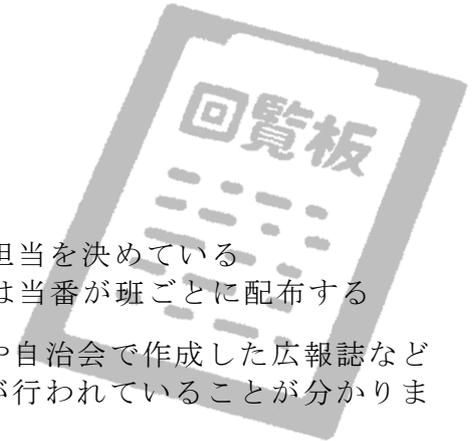
【配布担当者の当番制】

- 月ごとに配布当番を決めて配布する
- 配布当番（2か月で交代）が班へ配布する

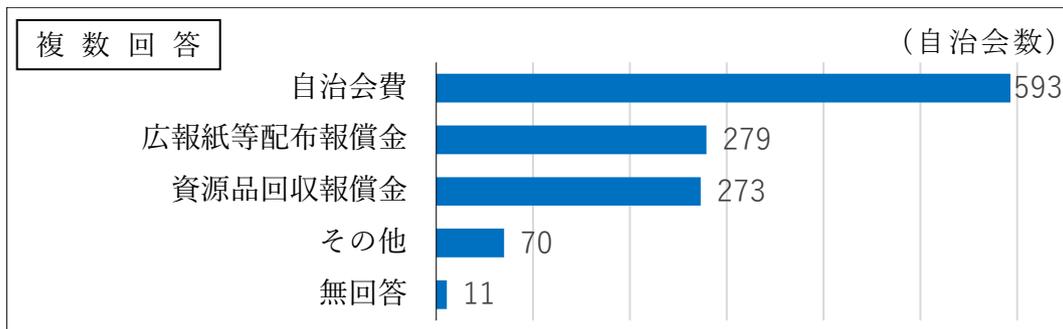
【配布先ごとの担当分け】

- 事業所は会長、各世帯は当番など、配布先ごとに担当を決めている
- 事務所、店舗、高齢者の多い班は会長、それ以外は当番が班ごとに配布する

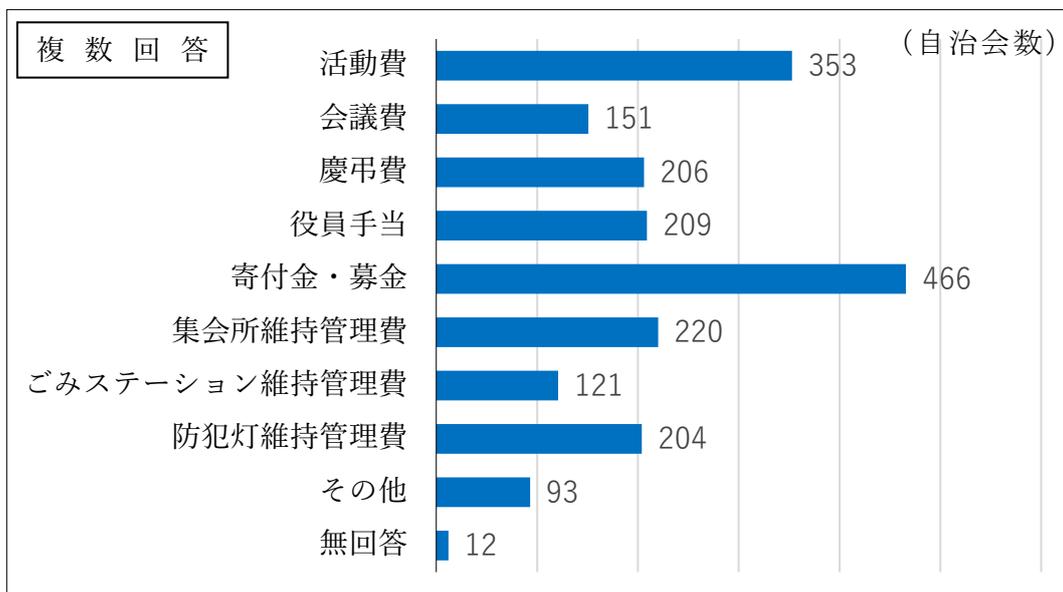
配布物は市からのお知らせだけでなく、地域だよりや自治会で作成した広報誌など地域によって様々ですが、色々な方法で各戸への配布が行われていることが分かります。



(9) 自治会の主な収入財源を教えてください。



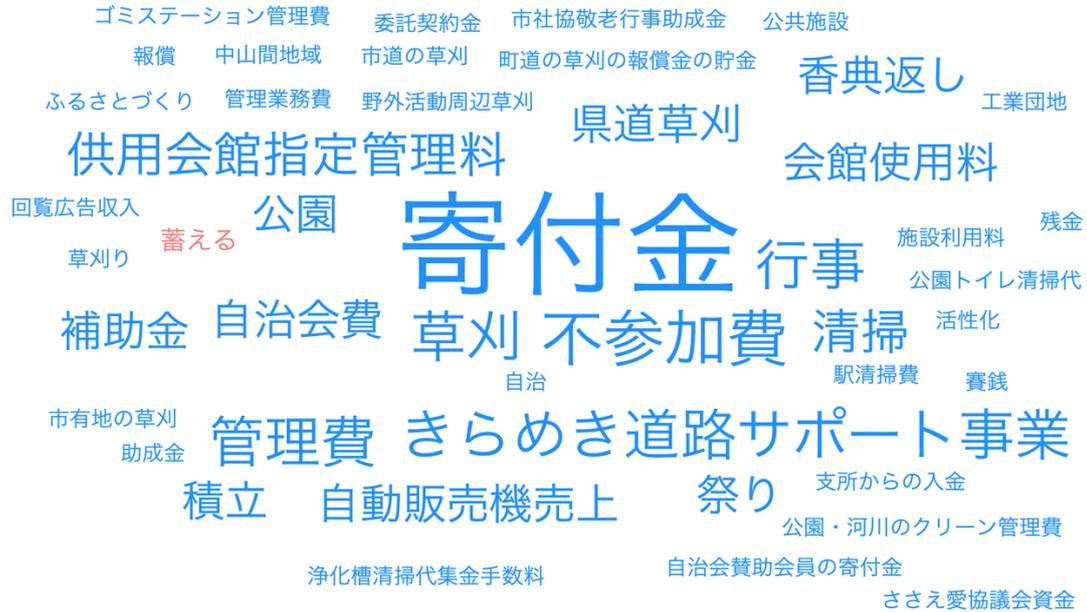
(10) 自治会の主な支出経費を教えてください。





くわしく見ると

【自治会収入財源の「その他」で出た意見を分析により可視化してみました】



収入財源のうち「自治会費」「広報紙等配布報償金」「資源品回収報償金」以外として挙げられた「その他」項目の中では、寄付金が最も多く、次いで「施設管理費・施設使用料」や、「きらめき道路サポート事業（県道の草刈）」が挙げられます。

また、行事や共同作業に参加しなかった場合の「不参加費」を挙げている自治会も5例見られた他、自動販売機の売上を挙げているものも2例ありました。

数は少数でしたが、公共施設の草刈や、公園のトイレ清掃、駅の清掃、回覧板の広告収入、地域内企業などの賛助会費なども挙げられています。



調査結果から

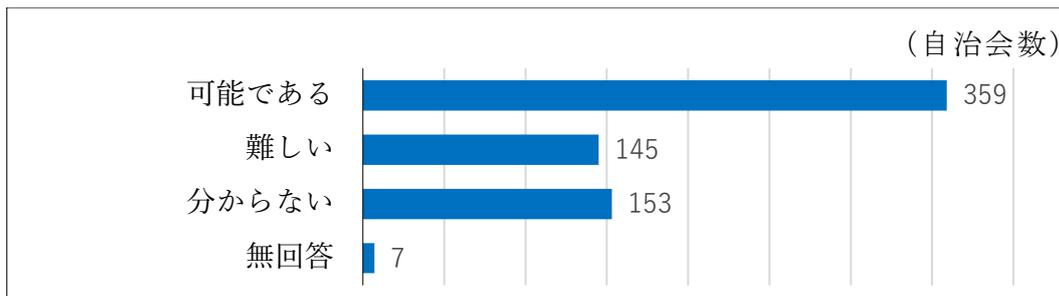
【自治会の収入財源】

自治会の主な収入財源としては、「自治会費」が最も多く、全体の8割以上を占めています。「広報紙等配布報償金」「資源品回収報償金」も約半数の自治会で回答がありました。

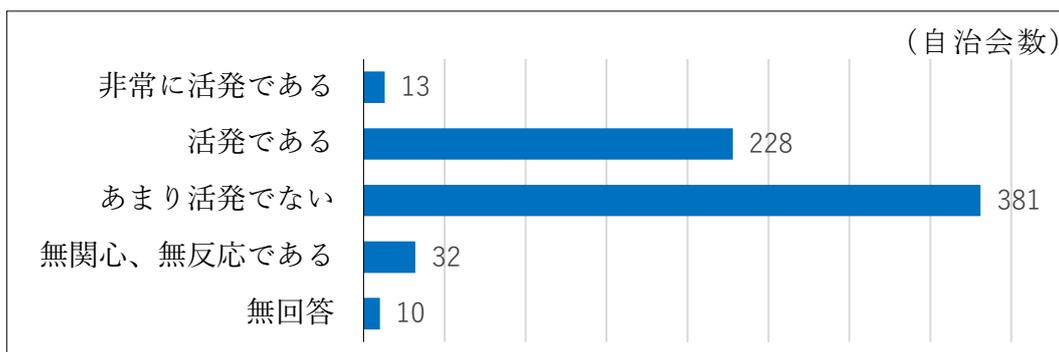
【自治会の支出経費】

自治会の支出経費としては、「寄付金・募金」が最も多く、次いで「活動費」が多くなっています。「その他」では行事の運営費などが多く挙げられました。

(11) あなたの地域は、災害時に近隣同士での助け合いや連携は可能だと思いますか。



(12) あなたの地域の住民同士の交流について、現状どのように感じていますか。



調査結果から

【災害時における近隣同士での助け合いや連携】

災害時における地域内での助け合いや連携は「可能である」が最も多く、約6割の自治会が連携体制を取れていることが見受けられます。

一方「難しい」「分からない」と答えた自治会もそれぞれ2割ずつ見受けられます。こうした地域では、実際に災害が起きた時には、近隣での助け合いが非常に大切になることを踏まえ、できるだけ地域住民の防災意識を高めていくことが求められます。

【住民同士の交流】

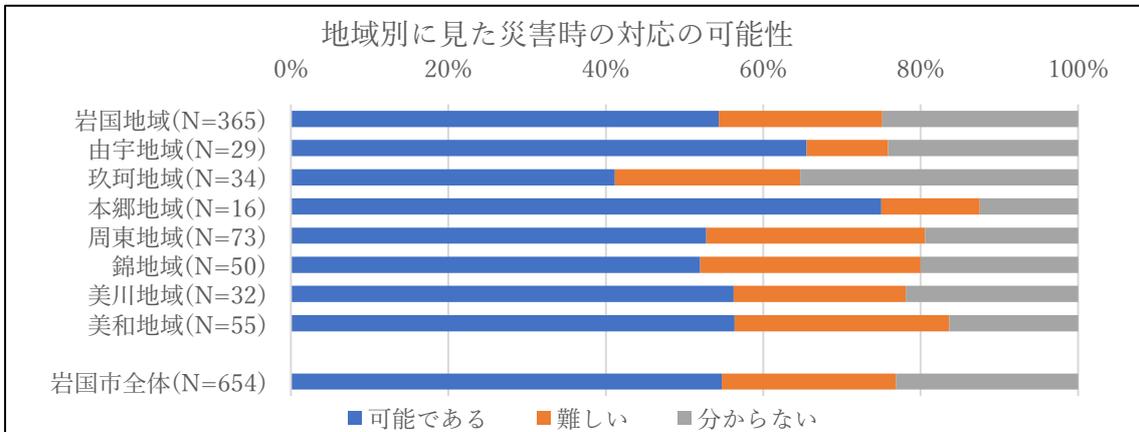
現状の住民同士の交流は「あまり活発でない」「無関心、無反応である」が全体の約6割を占めており、約4割の自治会が「活発である」「非常に活発である」と回答しています。

多くの自治会は緊急時の助け合いや連携ができると回答しており、地域コミュニティの形成がしっかりとされているようにも見受けられます。しかし一方で、普段の交流があまり活発でないという回答も多くなっています。普段の交流が災害時の連携にもつながると考えると、この点については課題を残しているともいえます。

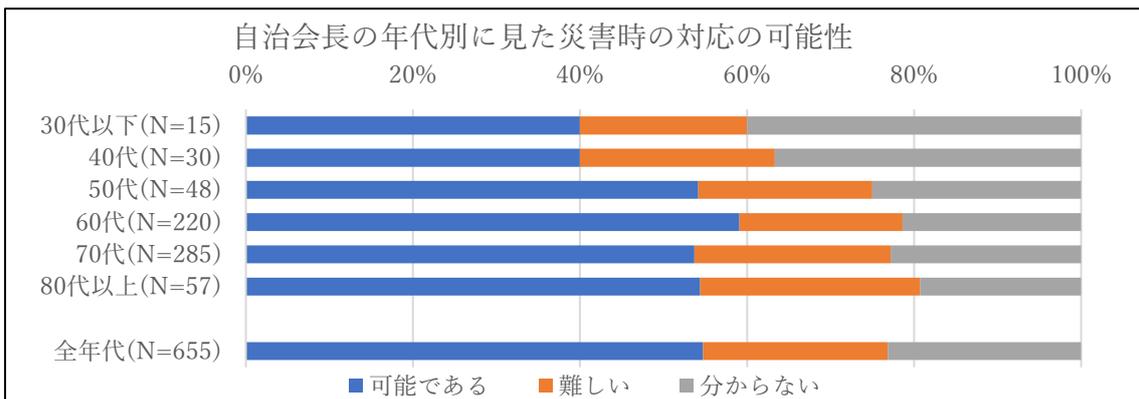


くわしく見ると

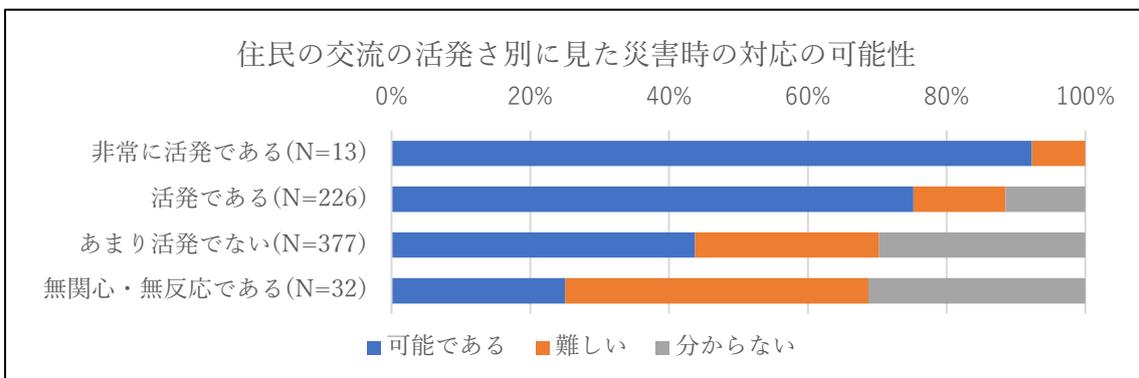
【地域別・自治会長の年代別に、災害時の対応について比較してみました】



災害時に助け合いや連携が「可能である」と答えた自治会が多く、「難しい」と答えた自治会が顕著に少ないのは（回答数は他に比して少ないものの）由宇地域と本郷地域といえます。



自治会長の年齢が若いと災害時の対応について「可能である」と答えた割合が低いことが分かります。この傾向は住民の交流についても同様で、自治会長の年齢が若いと地域の交流が「活発である」と答えた割合が低い傾向にあります。高齢の自治会長の方が地域の活力について評価が高くなる傾向にあります。

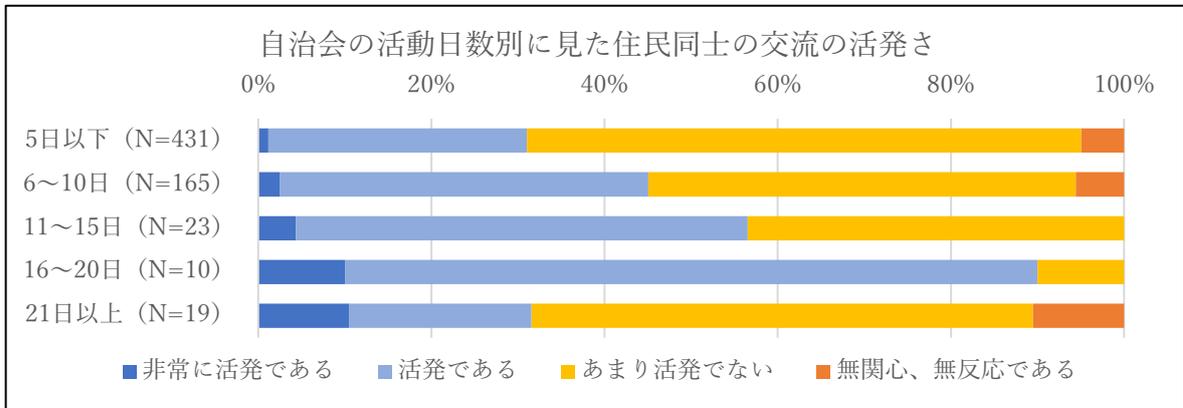


地域の住民の交流についての評価が高い自治会は、災害時の対応の可能性についても評価が高くなる傾向にあります。「日頃からの地域の交流が活発な地域の方が、災害時に互助や連携ができる可能性が高い」という一般的な認識と一致するといえます。



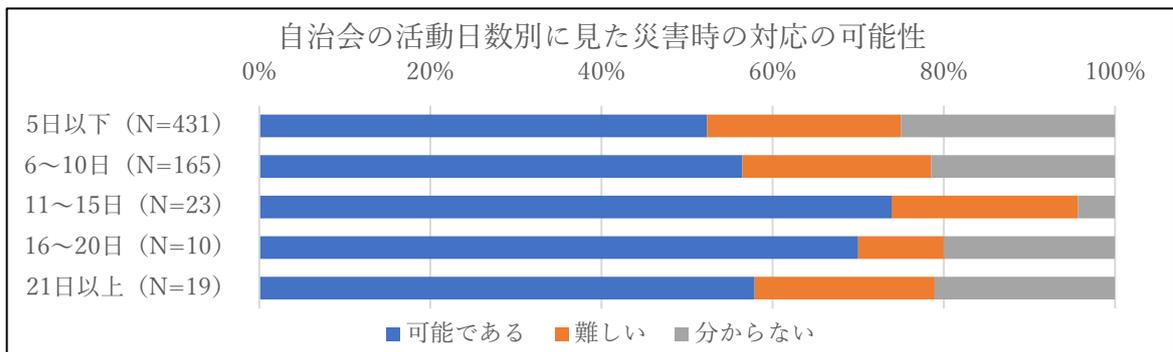
さらにくわしく見ると

【1か月の自治会長の活動日数と住民同士の交流の活発さに関係があるか見てみました】



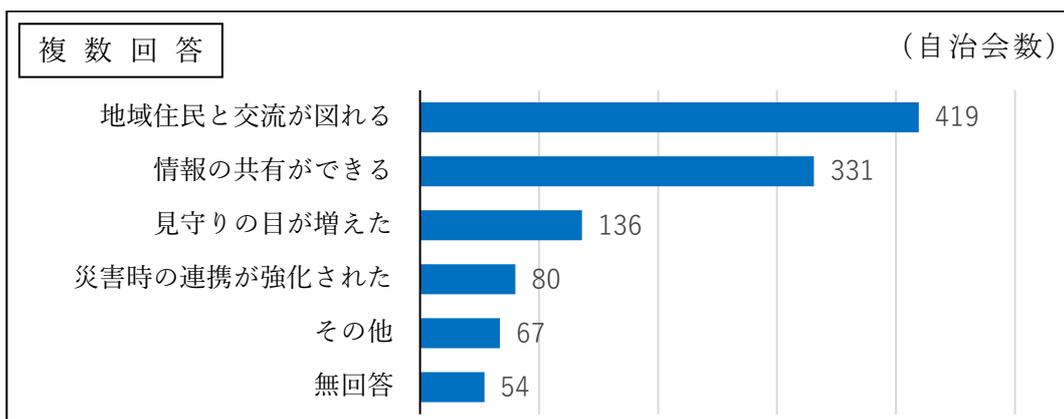
自治会長の1か月の活動日数が多い地域の方が、日頃の住民同士の交流を「非常に活発である」と答えた自治会が多い傾向にありますが、1か月の活動日数が21日以上になると（回答数は他に比して少ないものの）「あまり活発でない」と答えた自治会が極端に増えています。

【1か月の自治会長の活動日数と災害時の対応の可能性はどうでしょうか】



自治会長の1か月の活動日数が15日以下は、活動日数が多いほど災害時の対応について「可能である」と答えた自治会が多くなりますが、活動日数がそれ以上になると「可能である」と答えた自治会は減少傾向になっています。

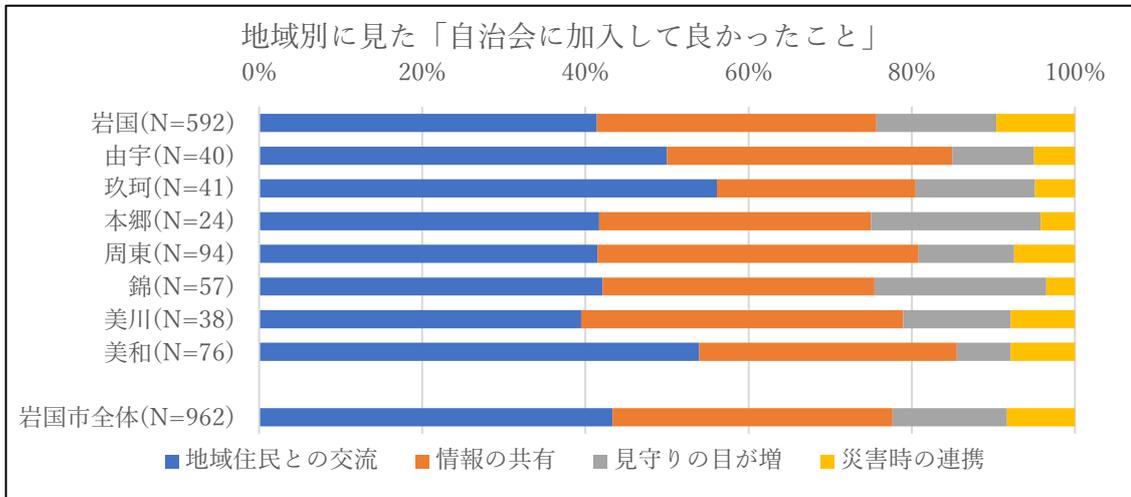
(13) あなたが自治会に入って良かったと思うことは何ですか。



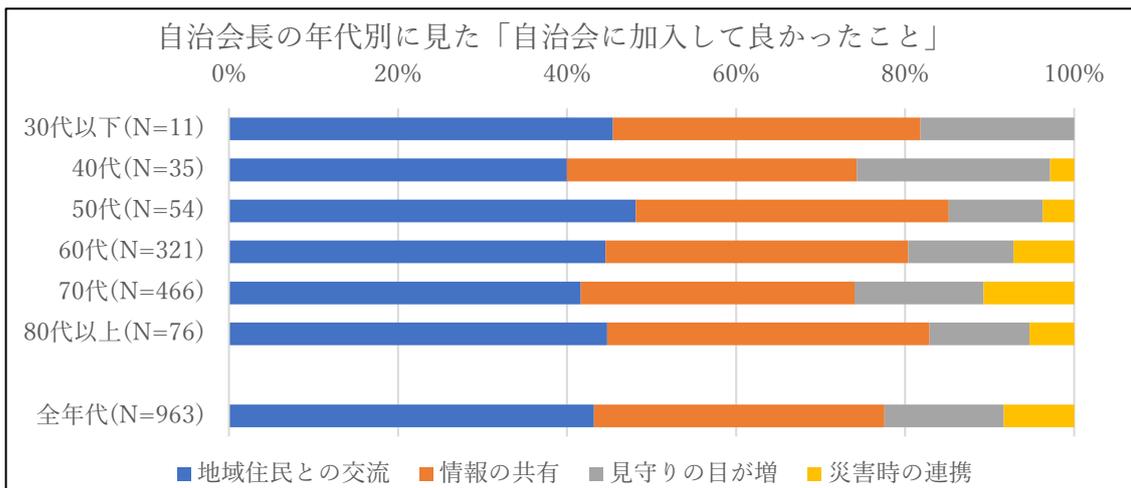


もう少しわしく見ると

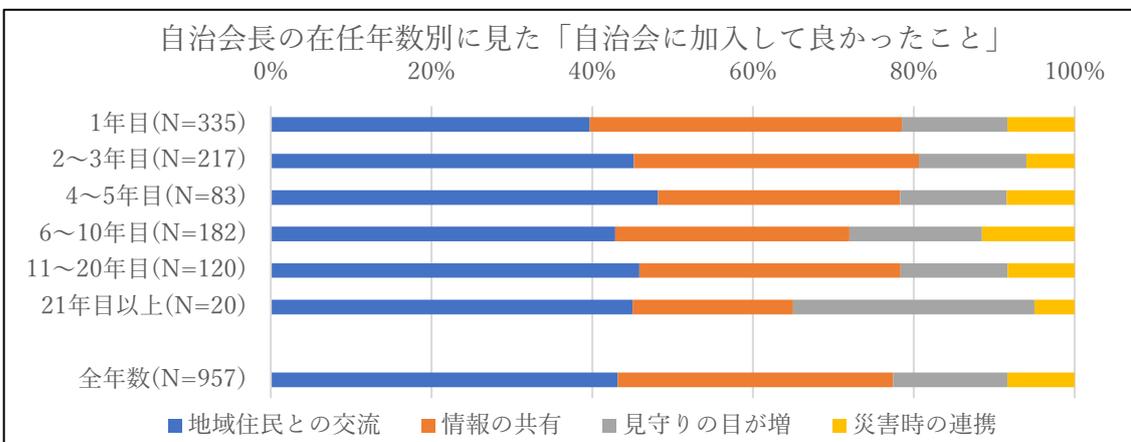
【自治会に入ってよかったことの内容を地域や自治会長の年齢で分類してみました】



地域によって大きな差はありませんが、由宇・玖珂・美和地域で地域住民との交流を挙げている自治会が比較的多いのが分かります。

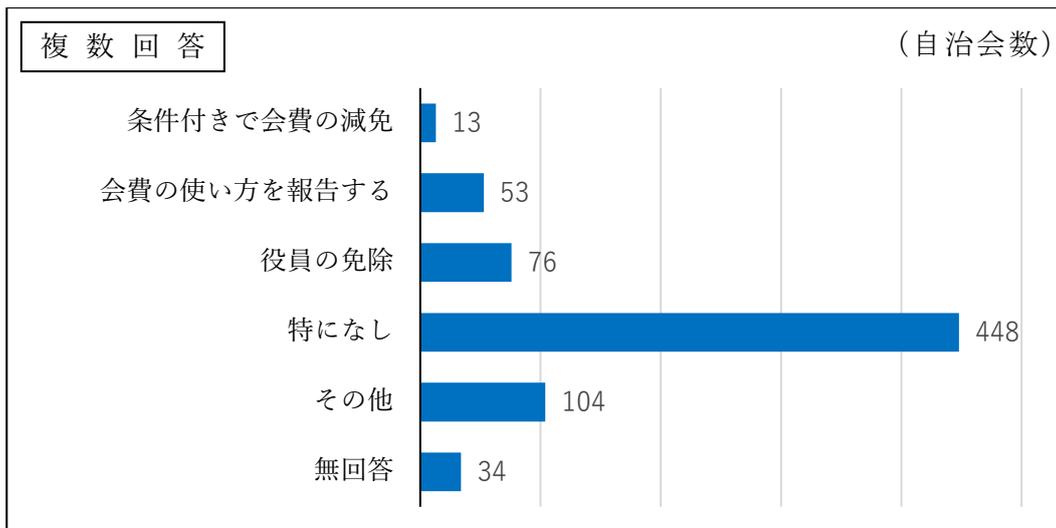


30代以下の自治会長が災害時の連携を全く挙げていないのが気になります。

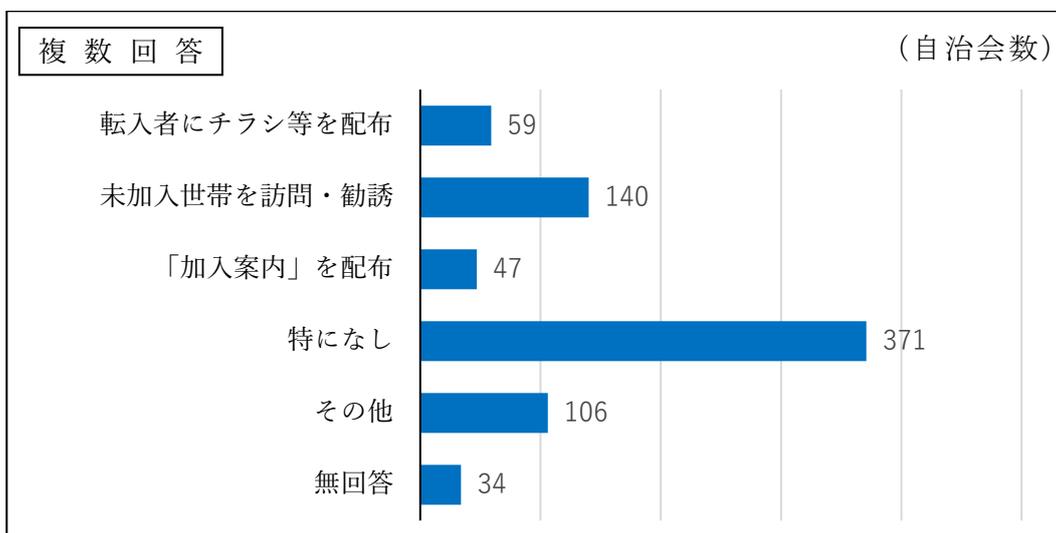


経験の浅い自治会長ほど、自治会における「情報の共有」機能に価値を置いている様子が見て取れます。

(14) 退会を希望する方を引き留めるために貴自治会が行っている対策は何ですか。



(15) 未加入者への働きかけについて、貴自治会が行っている取組は何ですか。



調査結果から

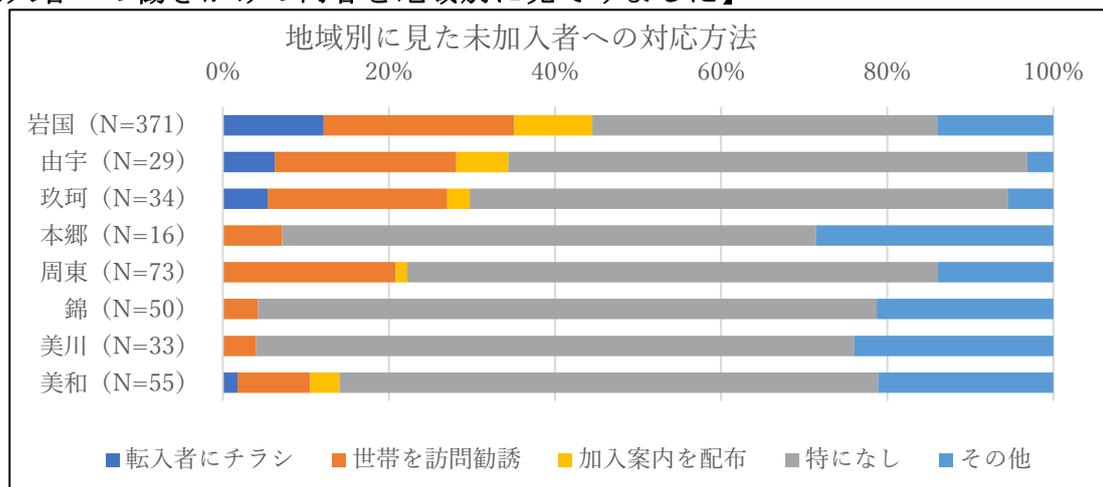
【退会者対策】

退会者対策は「特になし」が最も多く、次いで「その他」では「退会希望者がいない」という回答が多いことから、退会者対策を重要視する自治会は少ないようです。

【未加入者への働きかけ】

未加入者対策は「特になし」が最も多く、「その他」でも「未加入者はいない」という回答が多いことから、未加入者対策を重要視する自治会は少ないようです。

【未加入者への働きかけの内容を地域別に見てみました】



未加入者への何らかの働きかけをしている比率が高いのは岩国・由宇・玖珂・周東地域でした。手法としては「世帯を訪問」が最も多いですが、対応比率の高いところではチラシ・加入案内などの手法も見られます。

【退会希望者・未加入者への対策の傾向】

ここでは特にグラフでは示しませんが、自治会長の年代が高いほど、また、自治会長経験が長いほど、退会希望者・未加入者への対応をより多くしている傾向が見られます。

自治会の取組事例 | 入退会編

【退会者対策】

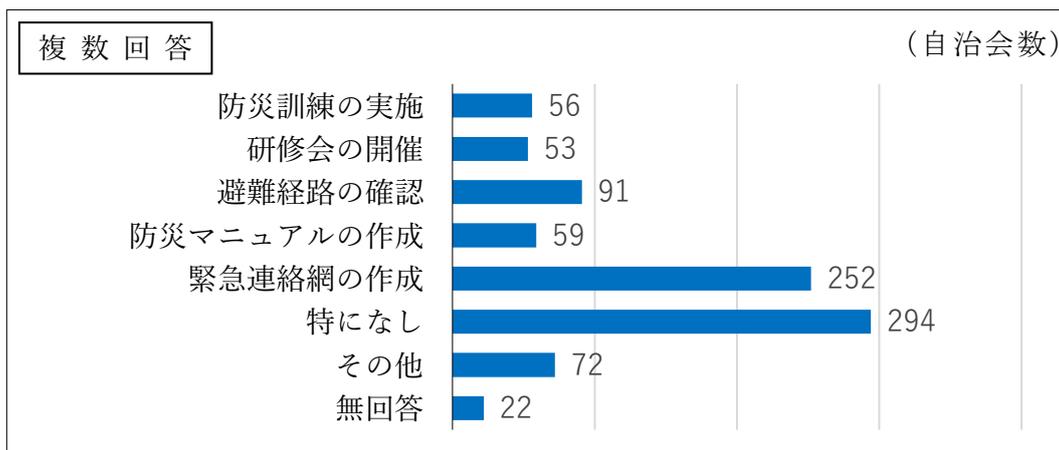
- 世帯主が 80 歳を超えた世帯は役員を免除
- 高齢世帯や単独世帯は役員や行事参加を免除
- 弱体者の場合のみ清掃作業等の参加を免除
- 自治会活動の目的や実施内容を文書にまとめ、年 1 回会員へ配布することで自治会の意義を認識してもらう
- 高齢者に対して自治会への加入が安否の確認につながることを伝えている

【未加入者対策】

- 転居者へごみ収集カレンダー等を持って行き、直接加入を依頼する
- 班長が年度当初に未加入者に声かけを行い勧誘する
- 不動産や宅地建物取引業者と協力し、入居時に加入を呼び掛けてもらっている
- 屋外看板に加入案内を掲示
- 未加入者に対して相互扶助の大切さや自治会の意義を説明

退会希望者への対策として、活動目的など自治会の役割を丁寧に伝えて説得するケースが多く見受けられます。また、今後の対策として、世帯の状況に応じて会費の減額等を検討している自治会もあるようです。

(16) 自主防災活動について、貴自治会が行っている取組は何ですか。



調査結果から

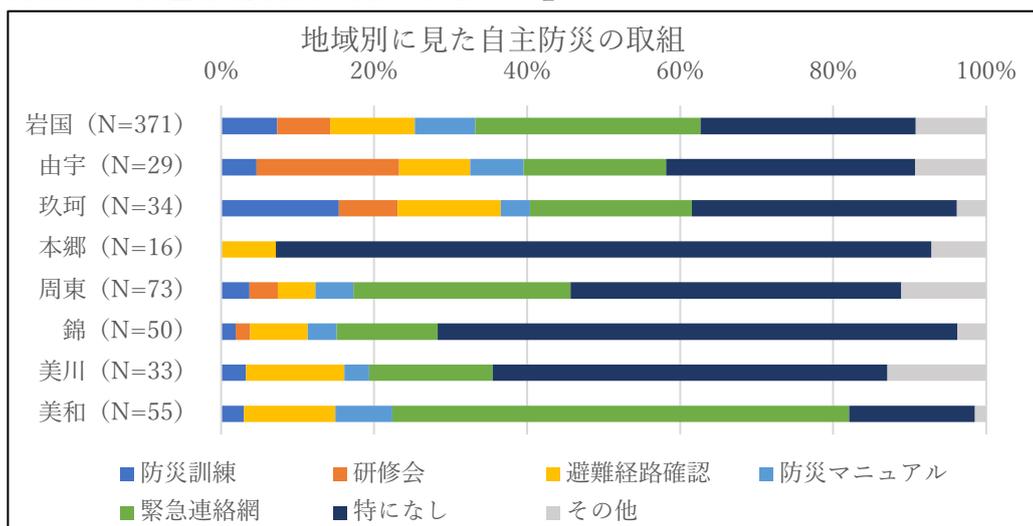
【自主防災活動】

自主防災活動は「特になし」の次に「緊急連絡網の作成」が多く、約4割の自治会が緊急時に備えた体制作りを行っています。また防災訓練や研修会を開催するなど、防災意識の向上を目的とした活動も行われています。



くわしく見ると

【自主防災活動の取組を地域別に見てみました】



自主防災活動として何らかの取組を行っている比率の高いのは美和地域でした。特に緊急連絡網の整備は、55自治会中40自治会（7割以上）と、その比率が高いことが特徴として挙げられます。逆に「特になし」と答えた自治会が多かったのが本郷地域でした。

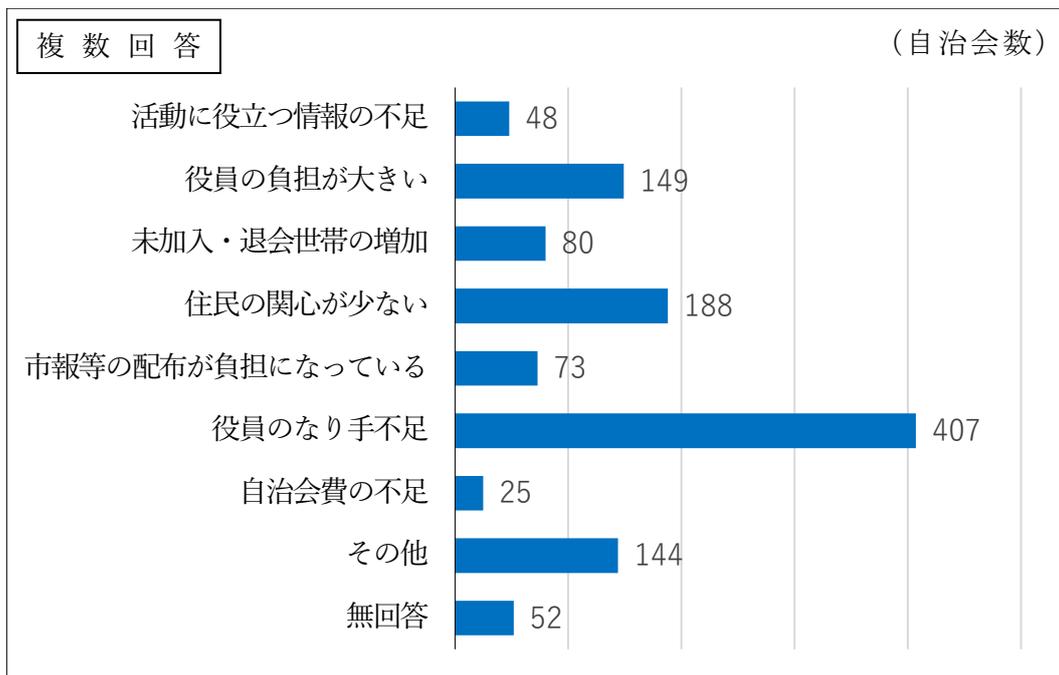
また、防災訓練の比率が高いのが玖珂地域、研修会の比率が高いのが由宇地域であることも分かります。

【自主防災活動の取組の傾向】

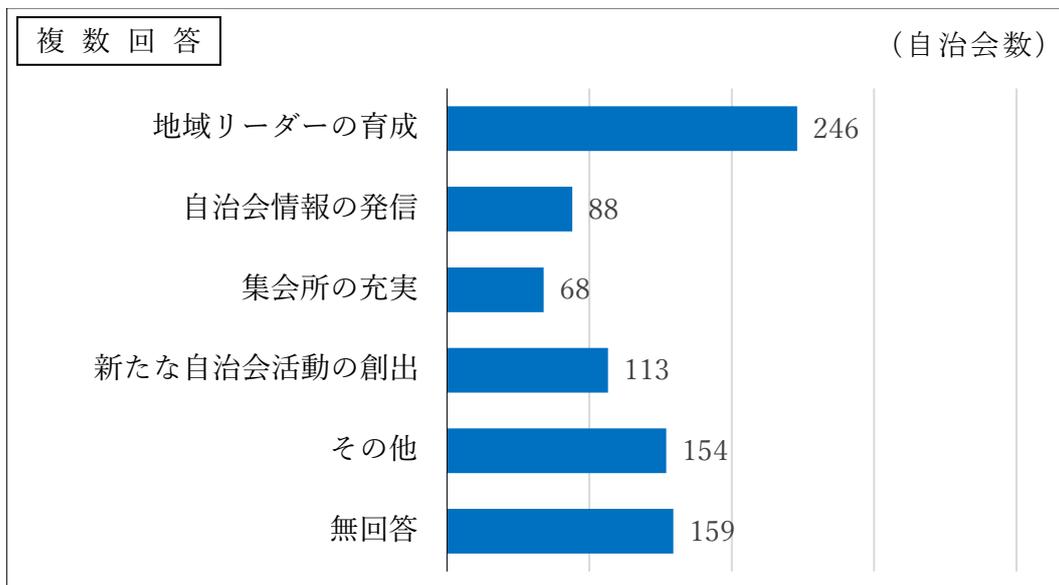
ここでは特にグラフでは示しませんが、自治会長の年代が高いほど、また、自治会長経験が長いほど、自主防災の取組をより積極的に行っている傾向があります。「若い自治会長・在任年数の少ない自治会長は熱心ではない」と見るよりも「やるべきだと認識していない」あるいは「自主防災の取組方法が分からない」ことに原因があると見た方がよいかもしれません。

経験の少ない自治会長が、地域の運営をできるだけ上手く回せるような知識・知恵を共有するための仕組みが必要なのかもしれません。

(17) 自治会活動を行っていく上で、貴自治会に当てはまる悩みや課題がありますか。



(18) 上記(17)の悩みや問題を解決するために必要だと思うことは何ですか。





調査結果から

【自治会活動上の悩み・課題】

自治会活動上の悩みは「役員のなり手不足」が最も多く、次いで「住民の関心が少ない」が多いことから、自治会活動に携わる人材の確保が課題であることが分かります。また、「その他」を選択した自治会のうち、7割以上が「会員の高齢化」や「人手不足」に該当する回答でした。

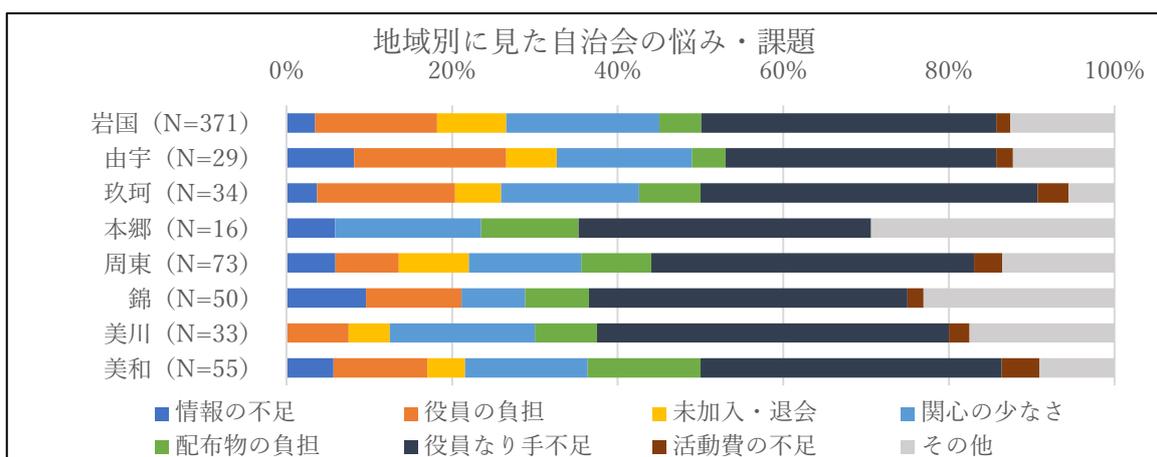
【自治会活動上の悩み・課題の解決に向けて】

課題の解決に向け、約3割の自治会が「地域リーダーの育成」が必要と回答しており、次いで「新たな自治会活動の創出」が多くなっています。また、「その他」では高齢化の対策が必要だという回答が多くありました。



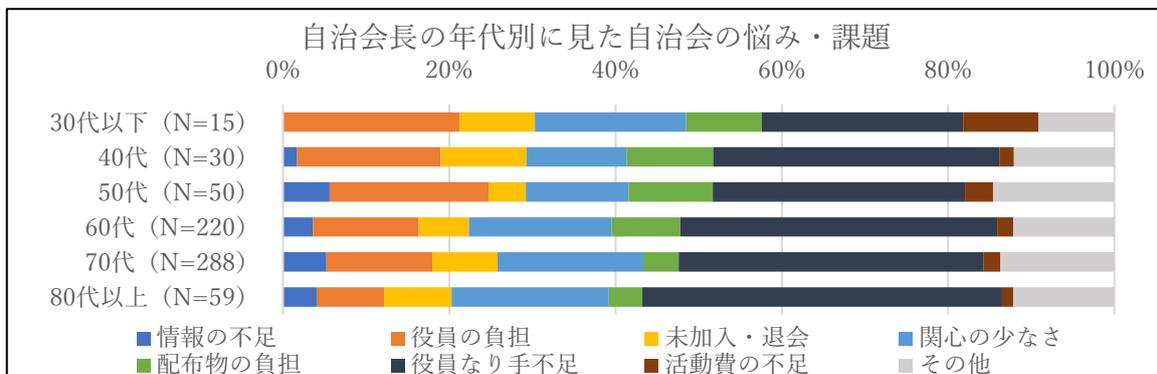
くわしく見ると

【自治会活動上の悩みや課題を地域別に見てみました】



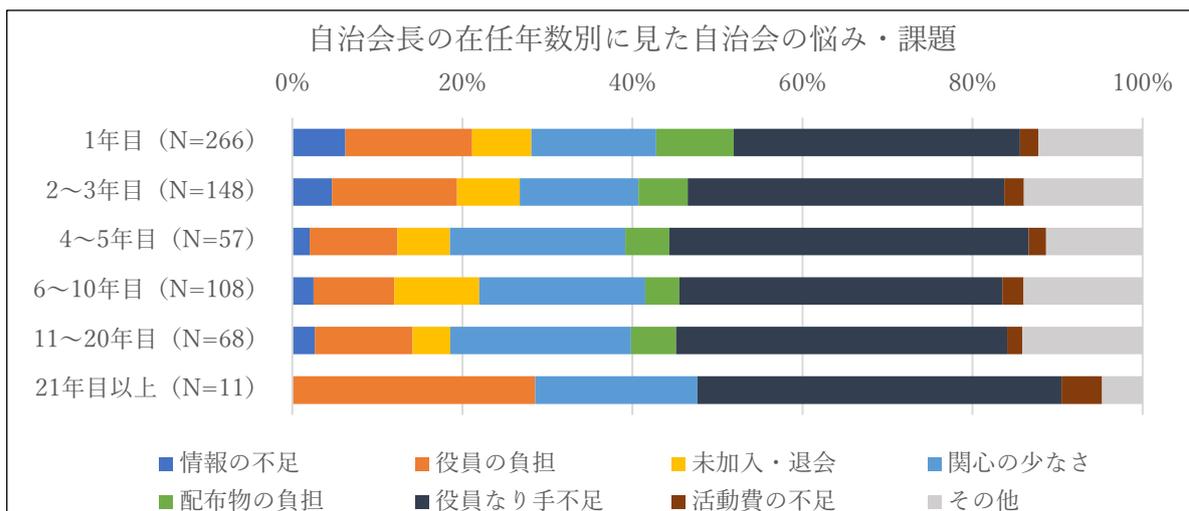
地域によって大きな違いはありませんが、本郷地域で「役員の負担」を挙げた自治会がなかったこと、美川では「情報の不足」を挙げた自治会がなかったことが特徴的です。

【自治会活動上の悩みや課題を、自治会長の年代別に見てみました】



若い自治会長ほど「情報の不足」よりも「役員の負担」「配布物の負担」「活動費の不足」を課題と感じている傾向が見られます。

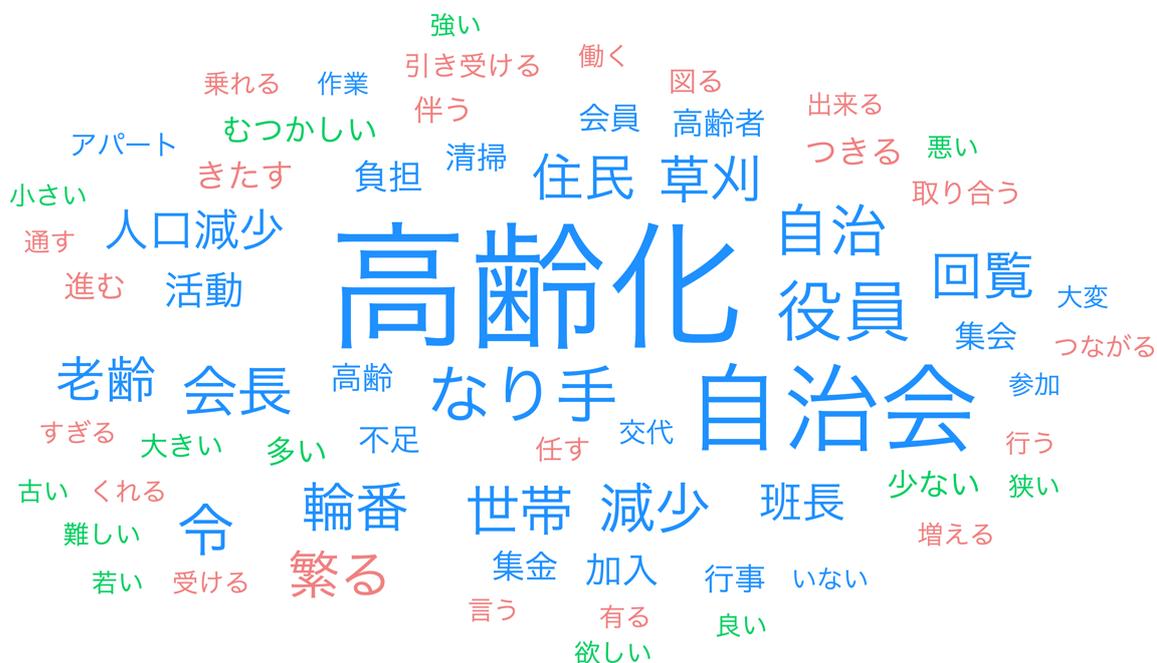
【自治会活動上の悩みや課題を、自治会長の在任年数別に見てみました】



在任年数の少ない自治会長ほど「情報の不足」や「役員の負担」「配布物の負担」を問題にしており、在任年数を重ねると「関心の少なさ」を問題にする傾向があります。

もう少しくわしく見ると

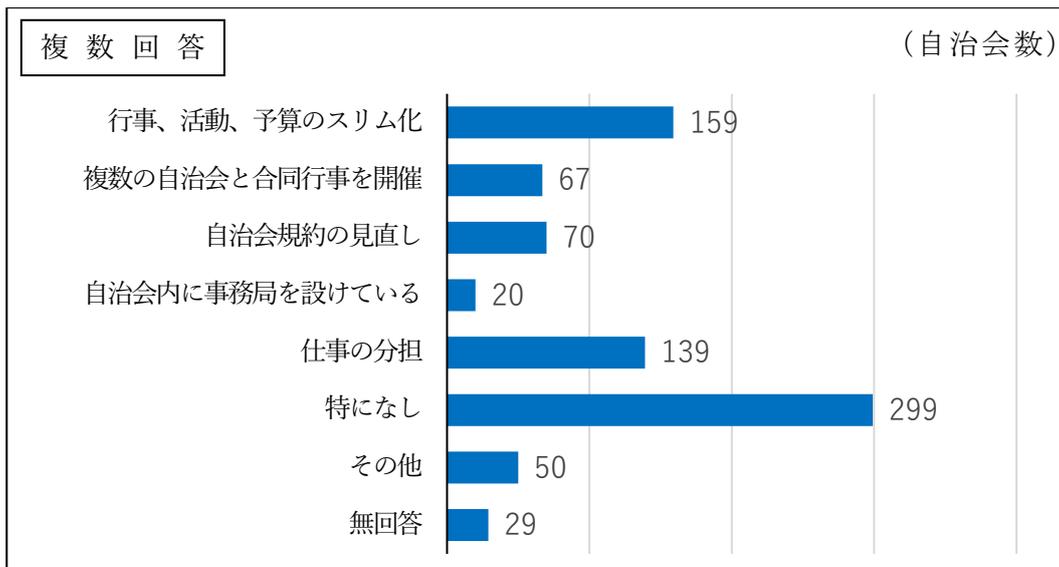
【自治会活動の問題点・課題の「その他」の意見を単語で可視化してみました】



目立つのは高齢化で、高齢化に伴い「役員」「会長」のなり手がなくなっていることや、人口「減少」の影響もあって「草刈り」などの共同作業が成り立たないなどが挙がっています。この課題を「輪番」により解決している様子が見て取れます。

「繁る」は樹木が繁って伐採に困っているという文脈で使われています。

(19) 自治会運営の見直しや工夫について、貴自治会が行っている取組は何ですか。



💡 調査結果から

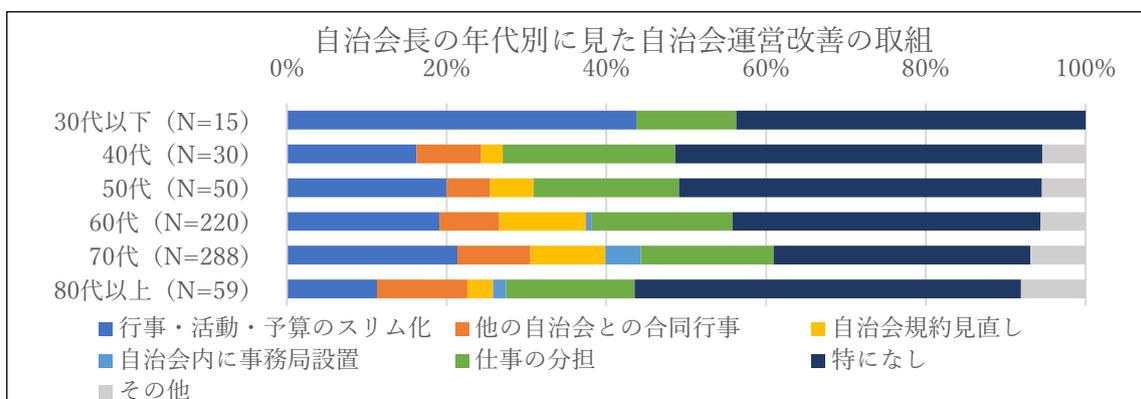
【自治会運営の見直しや工夫】

自治会運営の見直しや工夫点として「行事等のスリム化」や「仕事の分担」が多く、約4割の自治会が役員の負担軽減に向けた取組を進めているようです。

また、数は少ないですが、自治会内に事務局を設置している自治会も見られます。このような工夫が実際に上手くいっている自治会があれば、その仕組みを他の自治会でも採用できるよう、詳しく紹介するなどの方法も必要になると考えられます。

🔍 くわしく見ると

【自治会運営の見直しや工夫の取組を自治会長の年代別に見てみました】



30代以下の自治会長には「行事・活動・予算のスリム化」に取り組む方が多い結果となりました。それ以外では80代以上の方を除けば、年代が上がるほど、何らかの工夫の取組を行っていることが分かります。



自治会の取組事例 | 課題解決編

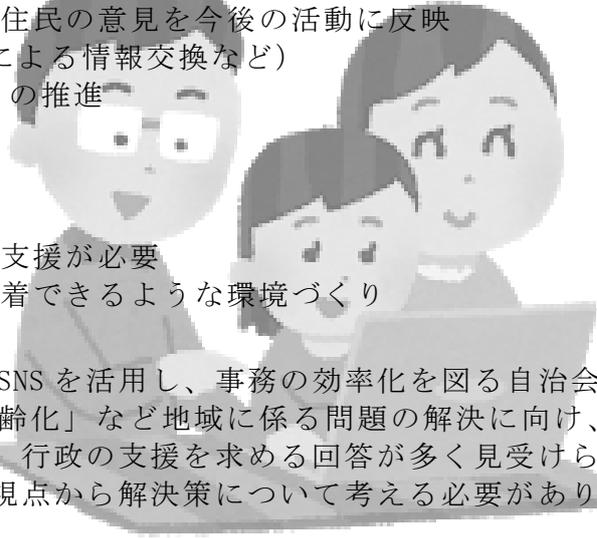
【自治会運営の見直しや工夫】

- 仕事のマニュアル化、書類作成方法の変更による事務の負担軽減
- 自治会内でアンケート調査を実施し、住民の意見を今後の活動に反映
- 連絡の迅速化（グループ LINE の活用による情報交換など）
- 自治会長、役員の若返り（50～60代）の推進

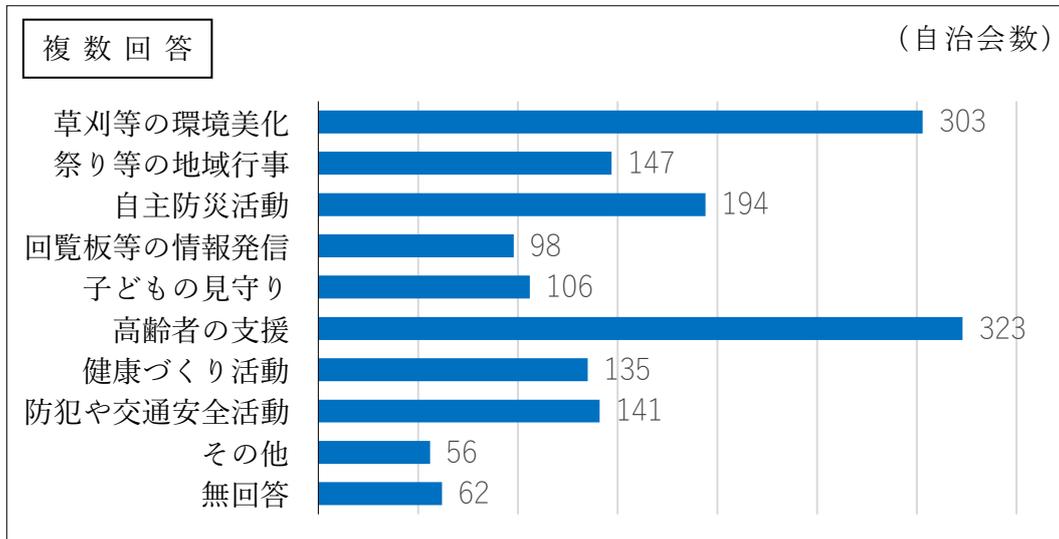
【地域に係る問題の解決に向けて】

- コミュニケーションの場をつくる
- 地域の活性化に向けて行政のさらなる支援が必要
- 若い人に協力を求める、若者世帯が定着できるような環境づくり

自治会運営の見直しとして、パソコンや SNS を活用し、事務の効率化を図る自治会もあるようです。また「地域住民の少子高齢化」など地域に係る問題の解決に向け、「行政の積極的な関わりを望む」といった、行政の支援を求める回答が多く見受けられます。各地域の問題を洗い出し、様々な視点から解決策について考える必要があります。



(22) 今後、どのような活動に積極的に取り組みたいと考えていますか。



調査結果から

【今後、積極的に取り組みたいこと】

今後、積極的に取り組みたい活動は「高齢者の支援」が最も多く、次いで「草刈り等の環境美化」が多いことから、約5割の自治会が、地域に係る問題として回答の多かった清掃活動の継続や少子高齢化への対策を重要視していることが分かります。

Ⅲ. 自治会の取組事例

(1) 草刈りや高齢者支援の活動の工夫

【特定の活動日を設けない工夫】

- ・草刈り等の清掃活動は日常的に気配りして活動日をつくっていないが、有志によって最低限の環境が保たれている。

どの地域でもできる方法ではないかも知れませんが、特定の作業日を設けないというやり方で上手くいっている地域もあります。

【草刈り協力者の個人負担を軽減する工夫】

- ・草刈り協力者には草刈機械、ひも、混合油、鎌等を支給し負担を軽減している。

草刈りだけでなく、みんなのために活動してくれる人にだけ負担が偏らないような工夫をしている地域も多いようです。

【別団体やボランティアグループが行う仕組み】

- ・草刈り作業は男性グループを作り、そこに有料委託し、会員の負担を軽減している。
- ・草刈り、樹木の伐採等は有志によるボランティア部隊を組織し活動している。
- ・公園の草刈りは子供会にも協力してもらっている。
- ・高齢者の支援はボランティアグループが社協の協力のもと行っている。
- ・自治会でボランティアサークルを運営し高齢者の支援を行っている。
- ・班長の中から福祉係を決めて、高齢一人暮らし世帯の見回りを実施したり、同好会として「健康会」を立ち上げお年寄りの世話をしている。

自治会内の人たちや、自治会役員の負担になっている活動を、外部団体を作ってそこに委託したり、ボランティアで協力してくれる人たちを募ってそこをお願いするなどの方法が挙げられました。自治会役員はできないが、高齢者の見守りならできるという方にも参加していただける方法といえるかも知れません。ただし、草刈り・清掃などが、地域の皆さんの集まる機会や交流の機会を担っていることもあるので、外部に委託する場合には配慮も必要です。

(2) 従来行事・コミュニケーションの機会を維持する工夫

【地域出身の皆さんに声をかけて手伝ってもらう工夫】

- ・他出した跡継ぎに協力依頼し賛同してくれる人に協力してもらっている。
- ・集落から出ていった人にも声をかけて、極力参加してもらうようにしている。

事情があって集落を出ていった人の中には、出身集落の事情をよく知ってくれている人が多いため、見ず知らずの人をお願いするよりも、お願いすれば引き受けてもらえる可能性が高いようです。

【地域の皆さんの興味を引き出す行事の開催】

- ・認知予防健康体操や、市の出前講座などを活用し、ほとんどの方の出席を得ている。
- ・毎月、月末に健康確認集会を実施している。

地域の皆さんがどんなことに興味があるのかをお伺いして、それに合わせた行事を行うことで、多数の出席者を集めている地域もあります。

【参加する人や世話する人の負担を減らす工夫】

- ・ 総会の会議時間を 30 分に、会食時間は 1 時間半に制限している。
- ・ 毎月の親睦会は、会員の食べ物持ち寄りで行っている。
- ・ 班の世帯数が多すぎるところでアンケートを実施して 2 つの班に分けたところがある。

会議にかかる時間が長いとなかなか出席しにくくなりがちのため、会議の時間を短くするだけでも出席率は上がります。また、飲食を伴う行事は、世話する人の負担が大きいため、なかなか続けられない地域もありますが、持ち寄りで開催することによって、世話する人の負担を減らすこともできるかもしれません。

【周辺の自治会と協力して省力化する工夫】

- ・ 隣の自治会と協力して祭、盆踊、とんど、草刈り清掃などを行っています。

1 つの自治会だけで行事を行うよりも、隣の自治会などと協力し合うことにより開催の負担を減らすことができるかもしれません。

【別団体やボランティアグループが行う仕組み】

- ・ 婦人会、老人会などと連携協力して活動している。
- ・ 年 4 回の高齢者の集まりを福祉委員と婦人会とで協力して行っている。

自治会だけで行事を行うのではなく、他の団体の助けを得て行ったり、他の団体が行っているものに合流したりすることにより開催の負担を減らすことができるかもしれません。

【旧来のやり方で維持し続けている自治会もあります】

- ・ 冠婚葬祭には自治会でお手伝いし、災害などの相互扶助のしくみもある。年 1 回の総会後の親睦会にはほぼ全世帯が出席しています。

お葬式を近所でお手伝いすることなどは、今は続けている地域は少なくなっていますが、そうした旧来のやり方で相互扶助の仕組みを維持できている地域もあります。

(3) 自治会加入促進や役員のなり手を増やすための工夫・アイデア

【労力や金銭的負担の軽減】

- ・ 役員の役割の軽減、規約の簡素化、会費の切り下げを行っている。

自治会加入を促進したり、役員のなり手を増やすために役員の役割を軽減、分散させたり、会費を下げたりする工夫をしている自治会も多いようです。

【女性の活躍を促す工夫】

- ・ 元気な女性が多いので、もっと活躍してもらいリーダー的立場で活躍してほしい。

どの地域でも、自治会役員には女性はあまり多くありません。役員のなり手がない地域は多いですが、女性が地域でどう活躍できるか、活躍できる環境をどう整えるかは、今後の自治会の課題といえます。

【自治会の活動の周知・透明性の向上】

- ・ 集合住宅の人にも声掛けをし、自治会をクリーンでオープンなものにしたため、自治会加入率は上がっている。
- ・ ゴミのネットを管理する人を指名し、自治会の活動として管理しているということを自治会員以外にも知らせるように努めている。

ゴミ集積場の管理を自治会がしているということを知らない人も多いです。自治会の活動として管理がされていることはできるだけ多くの人に知っておいてもらった方がよいでしょう。

【誰でも会長になれるような仕組みづくり】

- ・役員4～5人の合議制にし、常時3～4人が会長をできるようにしていきたい。

誰でも役員や会長になれるような仕組みをつくることは簡単ではありませんが、そういう仕組みづくりができれば役員のなり手不足の問題は解決できるかもしれません。

【役員を輪番制にする】

- ・役員、班長などは1年任期の輪番制にして維持できている。
- ・自治会の役員（会長、福祉員、まつり推進員、監査委員）は班ごとの輪番制にしている。

自治会長や役員のなり手がいない問題の解決策のうち最も現実的なのが輪番制にすることもできません。輪番制なら役員選出に苦勞することはありませんが、誰が役員になっても問題がない仕組みが整っていない地域では難しいかもしれません。

【役員任期の見直し】

- ・1年任期を2～3年任期にした方が有効と考え検討中。
- ・任期が長いと役員のなり手がいないので1年任期にしている。
- ・役員のなり手がいないので、規約改正をして任期を2年から1年に変更し、輪番制とした。

役員の任期は地域によって様々で、短くても長くてもそれなりに課題がありそうです。1年任期では、役員が地域の事情を把握できないうちに交代してしまうという問題もありますが、1年やればだいたいことは分かるという地域もありました。また、2～3年任期では負担が大きく役員のなり手がいないという指摘もあります。また、あまり長すぎると世代交代が難しくなってくるという問題もあるため、地域ごとに議論し、その地域の実情に合った方法をとられているようです。

（4）地域の課題発見と課題解決方法の検討

【企業の業務改善の手法を自治会活動に応用】

- ・地域の将来の姿についてギャップシートを作成し各班長と意見交換をして改善をしている。

現状の姿	ありたい姿
「今、こんな問題が発生している」	「解決して△△の様にしたい」
ギャップ	攻め所
「何故、解決し△△に出来ないのか？」	「ギャップを解決するには今後どんな取組をすべきか？」

※自治会長からご提供いただいた資料から引用

企業において業務改善等に用いられることの多いQC（Quality Control：品質管理）活動を自治会運営に応用し、地域内での詳細な意見聴取をもとに、地域のあるべき姿と現状のズレ（ギャップ）を明らかにして改善すべきポイントを描き出すという考え方。誰にでもできるというような簡単な方法ではないですが、地域の現状の課題とその解決策を考えられる方法といえます。

【地域の活力向上に向けたアイデア】

- ・地元出身者に帰ってきてもらう取組を検討中。

(5) 助け合える地域づくりのための取組と課題

【防災活動の推進】

- ・自主防災の取組を検討中です。
- ・災害時の避難訓練をしたいと考えていますが指導してくれる人が必要です。
- ・皆が避難できる体制づくりをしたい。全員が助かるようなものにしたい。

地域の防災問題には関心の高い自治会長は多いようです。自治会には加入したくない地域住民の中にも、災害が起きた時に助け合う仕組みには興味を示す人も多く、防災活動は今後の自治会の活動内容としては注目されるものになりそうです。

【緊急対応の必要性から自治会名簿を更新】

- ・自治会名簿を更新し、緊急連絡先を設けた。

「緊急時にどうお手伝いしたらよいですか？」ということから自治会活動に興味を持ち、協力してくださる住民の方もいらっしゃいます。

【世帯情報が集められない個人情報への壁】

- ・個人情報保護が優先され、地域内世帯情報が集まらず、支援が必要な世帯等を把握できない。
- ・世帯の情報が分からないが、個人情報ということで役所にも開示してもらえず苦慮している。
- ・個人情報理由となって、転入してきた地域住民の様子が分からない。
- ・災害時のために世帯台帳を作成しているが、更新連絡がないので世帯の状況が把握できない。

この問題については、地域内の世帯情報を把握したいのに把握できないということで、悩む自治会長はたいへん多いようです。個人情報保護の観点からは、目的を限定して住民の皆さん本人の承諾を得て集めた情報を自治会が管理することは可能であるため、災害時の対応などをきっかけに世帯情報を有効に集めるやり方を共有していくことが必要です。

以上、各自治会で取り組まれている事例を、大きなものから小さなもの、難しそうなものからすぐにできそうなものまでご紹介しました。

これらは全て、市内の自治会の取組です。詳しく知りたい事例があれば、市民協働推進課までお問い合わせください。

終わりに

近年、自治会を取り巻く環境は大きく変化し、子どもの安心・安全、高齢者の見守りや地域の防災・防犯など地域の課題は山積しています。また、その一方で自治会は未加入者の増加や役員のなり手不足、人と人とのつながりの希薄化といった問題に直面していることが、今回のアンケート調査で分かりました。

今後、更なる人口減少や少子高齢化が見込まれる中、様々な地域課題に対応することができる地域づくりと、それを支える行政の支援体制の充実が求められています。

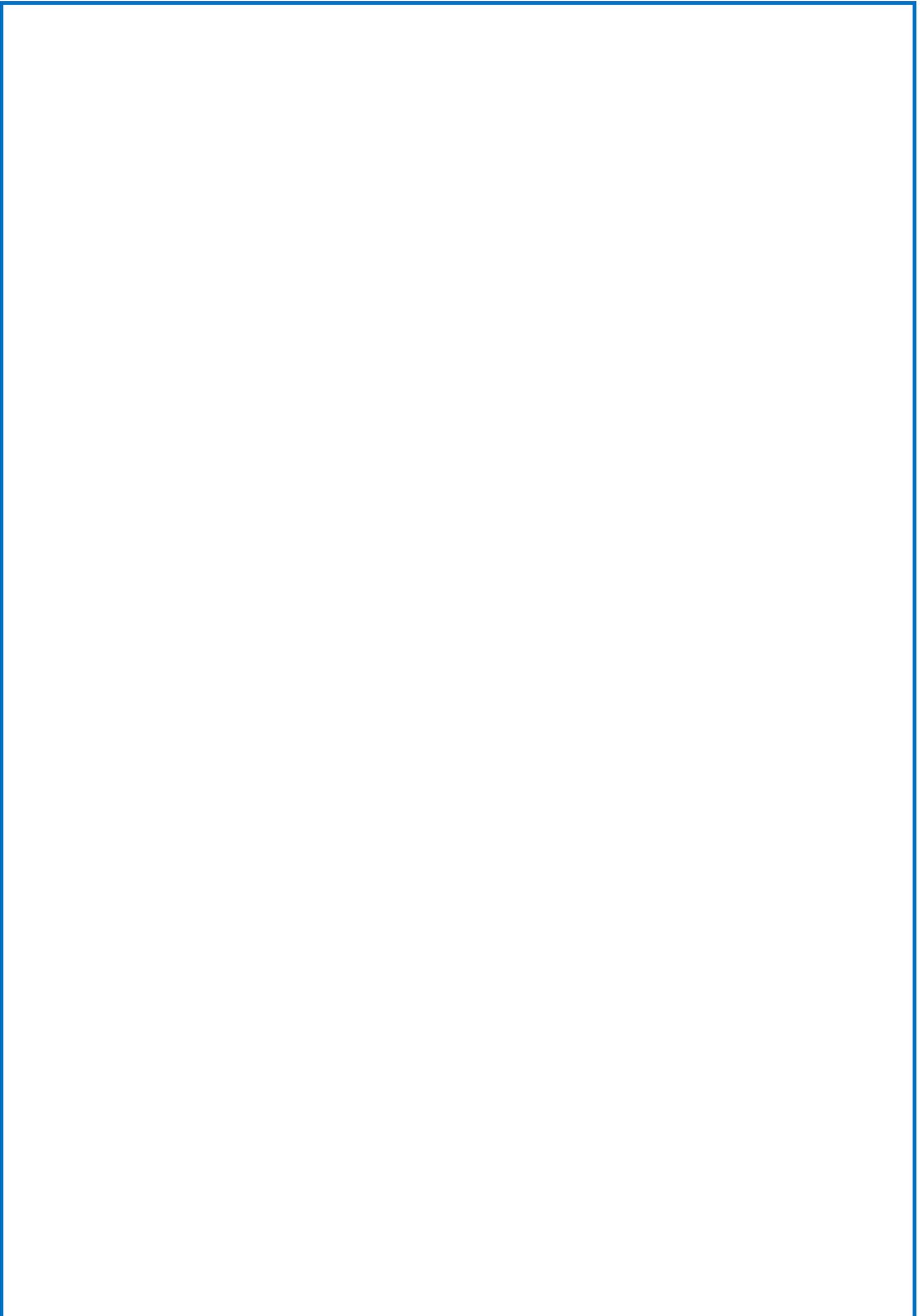
市としましても、このアンケートの調査結果を踏まえ、市民一人ひとりが地域社会の一員であることを自覚し住み良いまちにしていくための協働のまちづくりに向けた取組を一層進めてまいりますので、引き続きご協力をお願いします。

また、自治会活動を行っていく上で本報告書を活用していただき、自治会の活性化の一助となれば幸いです。

本報告書作成に当たり、アンケートへの回答や資料提供にご協力いただいた各自治会の会長をはじめ、役員、会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和3年7月

岩国市



岩国市自治会アンケート報告書

作成 令和3年7月

編集 岩国市

担当連絡先 〒740-8585 岩国市今津町一丁目14番51号

岩国市役所 市民生活部 市民協働推進課 協働推進班



0827-29-5015 (直通)



0827-22-2866



kyoudou@city.iwakuni.lg.jp